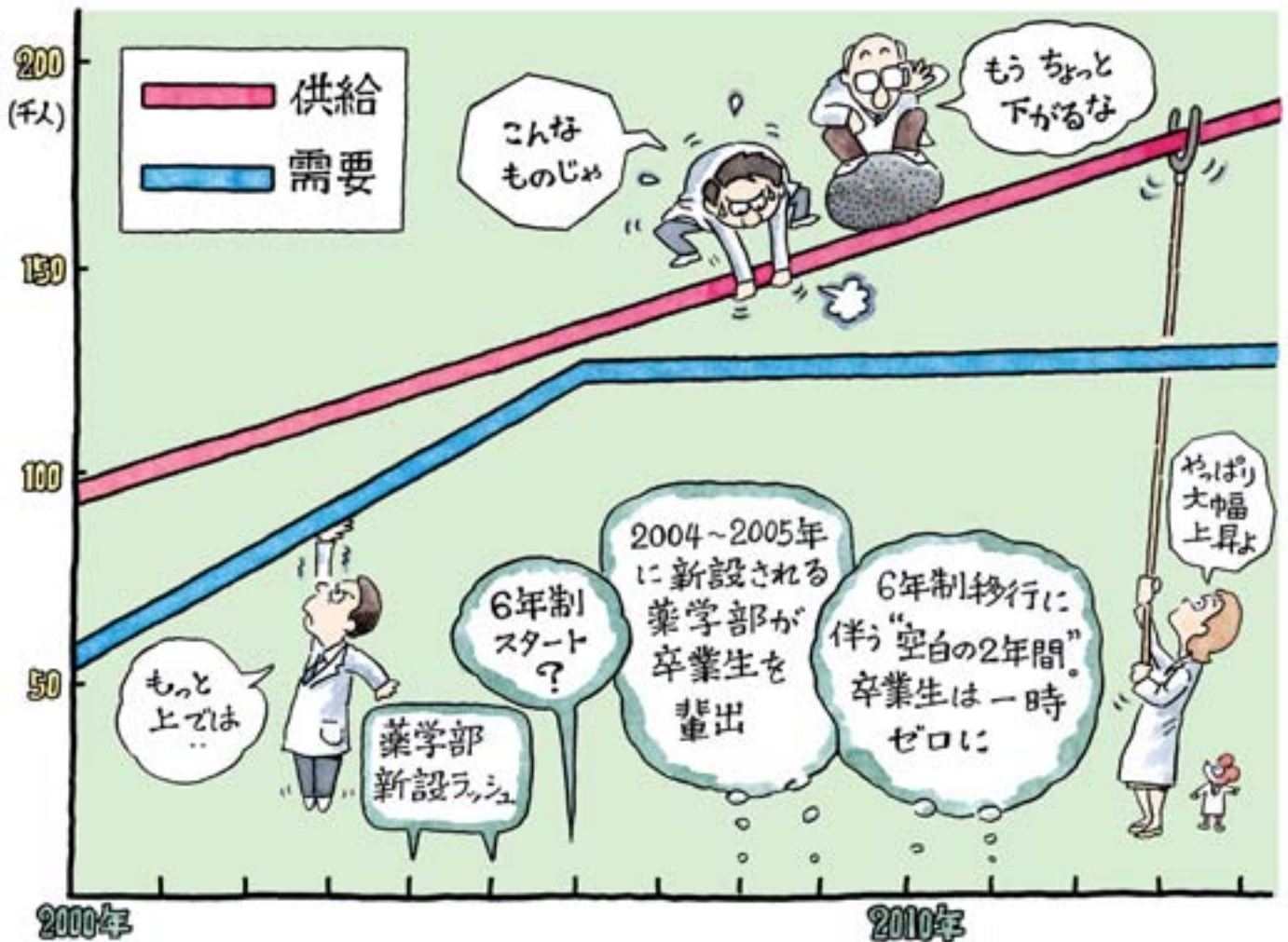


迫り来る“薬剤師過剰”時代

薬学部新設ラッシュと6年制で競争激化は必至に



出典：厚生労働省薬剤師問題検討会「薬剤師需給の予測について」。グラフの需要ラインは上位推計。

薬剤師の資格さえあれば何とかなる——。昨今、世間ではそんな見方がまかり通っている。

実際、この不況下でも薬剤師の需要は伸びており、どこに行っても引く手あまただ。

だが、そんな現状が一変する日はそう遠くないかもしれない。

厚生労働省では昨年9月、薬剤師の需給予測を公表し、早ければ2006年にも需要は頭打ちとなり、

以後「供給過剰」の状態が続くと結論づけた。ただ、そこでは今後2～3年の間続く「薬学部新設ラッシュ」の影響が加味されておらず、実際には薬剤師にとってさらに厳しい状況が現出するものとみられる。

薬剤師の雇用をめぐるのは、ほどなく実現する薬学教育6年制が与える影響も大きい。

果たして薬剤師にはどんな未来が待ち受けているのか。(庄子 育子、土田 絢子)

Part 1 ● 空前の薬学部新設ラッシュ

薬学生1万4000人で需給が一変

今後2～3年の間、薬学部新設ラッシュが続く。薬剤師という職業の近年の人気ぶりの証左だ。だが、それによってもたらされる薬学生の大幅増で、薬剤師の“売り手市場”とも言える現状は、近い将来大きく変わることになる。

今年4月、就実大学と九州保健福祉大学の2校が20年ぶりに薬学部を開設した。来年度には日本薬科大学と千葉理科大学の二つの薬系大学の新設が予定されているほか、青森大学など既存の5大学が薬学部を増設する。来年度の開設を目指す計7校は既に文部科学省に申請済みで、11月にも認可が下りる見込み。さらに、日本私立薬科大学協会の調査によると、2005年度にも8校が薬科大学や薬学部を新設する計画があるという(図1)。まさに「空

前の薬学部新設ラッシュの到来」(薬局関係者)と言える。

これまで19年間もなかった薬学部の新設が一気に進んだ背景には、政府の規制緩和方針がある。学校教育法等の一部が改正され、大学や学部の設置認可が受けやすくなった影響が大きい。

受験者を集めやすい薬学部

数ある学部の中から、大学側がとりわけ薬学部に着目した理由は様々だ。

まずは今春、薬学部を設置した就実

大について。岡山市にある同大学はもとも文学部のみを持つ女子大だった。しかし近年、入学志望者がとみに減ったことから、2年前に大学改革委員会を設置し、何らかの対策をとろうと考えていた。検討の結果、現在の薬学部の人気ぶりを知り、地元の薬剤師会等からも情報を収集したところ、薬剤師のニーズが高いことが判明。そこで、男女共学となる薬学部の新設に踏み切った。

大学創立時から、現在ある文学部のほか、医学部や薬学部を設置する構想があったとするのは東京都西東京市にある武蔵野大学。同大学も元は女子大で、これまでは規制が厳しいことから学部の新設を断念していた。しかし、「規制緩和を機に、80周年記念に当たる来年に薬学部を開設することにした」(同大広報部)という。

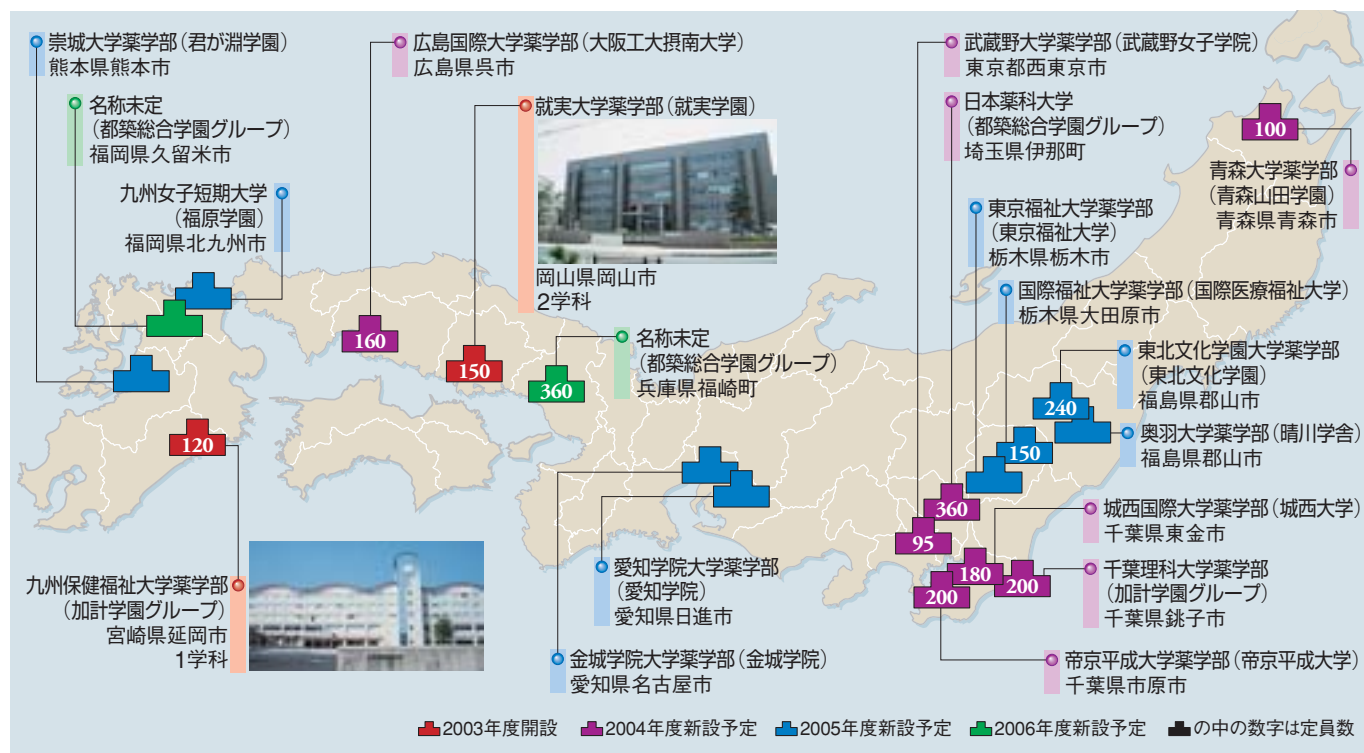


図1 ● 2003年度以降新設予定の薬科大学、薬学部 (日本私立薬科大学協会調べ) 9月4日現在。()内は、法人やグループ名を示す。